

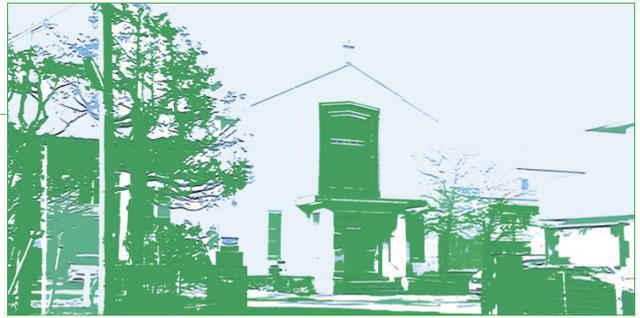


# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)  
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



## とりが鳴いたらペトロも泣いた (土曜学校より)

小西 広志 神父

みんなは、『カトリックいろはかるた』って知っていますか？ <sup>こんだたけみ</sup>今田健美神父さまが<sup>つく</sup>作られたかるたです。今田健美神父さまは今の世田谷教会（下北沢）<sup>た</sup>を建てられた神父さまです。なんだか、こわーい神父さまというイメージですが、<sup>じつ</sup>実はチョップリユーモアのあるやさしい神父さまでした。

神父さんも、『カトリックいろはかるた』で<sup>あそ</sup>遊んだような<sup>きおく</sup>記憶があります。『いろは』というのは、むかしの『あいうえお』のことです。だから、かるたのはじまりのふだは『いつつのパンで五千人』という言葉でした。

もう、五十年も前のことですから、ふだの一つひとつにどんな言葉が書かれていたのかは<sup>おぼ</sup>覚えていません。でも、ちゃんと覚えているのは『と』のふだです。それには『とりが鳴いたらペトロも泣いた』とありました。そうですね。イエスさまのことを三回<sup>し</sup>知らないと言ったペトロは、三回目の時に、朝を<sup>あ</sup>告げるニワトリの鳴き声<sup>な</sup>がして、ペトロが泣き出したという聖書のお話です（ルカによる福音書 22 章 54 — 62 節）。

神父さんは、この言葉を今でも思い出します。そして、かるた遊びをして、この言葉を覚えたような記憶がないのです。知らず知らずのうちに、覚えてしまいました。というか、神父さんのお母さんが何度も「とりが鳴いたらペトロが泣いた」と話してくれたのを覚えています。お母さんを通して、覚えた言葉です。

イエスさまを知らないと言ったペトロは、自分がイエスさまを<sup>うらぎ</sup>裏切ったことに気がついて泣き出したんだと、神父さんは子どものころにはそう<sup>りかい</sup>理解していました。だから、イエスさまを裏切っちゃいけないんだ、<sup>わる</sup>悪いことをしっちゃいけないんだと<sup>かんが</sup>考えていました。子どもから、少年、青年、そして<sup>そうねん</sup>壮年、おじさんと年を<sup>かさ</sup>重ねていくうちに、ときどき、この言葉を思い出していました。それは、悪いことをしたとき、イエスさまを裏切ったときでした。そして、この言葉を思い出しては胸が<sup>むね</sup>チクリと<sup>いた</sup>痛くなっていました。

『とりが鳴いたらペトロも泣いた』をもう一回、こころの中できりかえしてみたら、なんとなく作者の今田健美神父さまのお気持ち<sup>きもち</sup>がわかったような気がしてきました。人間は知らず知らずのうちに悪いこと、イエスさまを<sup>うらぎ</sup>うらぎることをするんだよ。そして、なにかの<sup>ひょうし</sup>拍子にそれに気がつくんだ。ニワトリが鳴いてペトロが気がついたように。ニワトリの鳴き声は神さまからの呼びかけの声なんだよ。いつもの生活の中にそんな神さまの呼びかけがあることに気がつきなさい。何度<sup>なみだ</sup>涙を流してもいいじゃないか。気がつくことが大切なんだよ、と、今田神父さんは言いたかったんじゃないかなと思います。二月十七日は灰の水曜日です。神さまからの呼びかけに気がつける四旬節でありますように。